

一 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に、⑥～⑩の傍線部の漢字をひらがなに、それぞれなおしなさい。

- ① 農作物をシュツカする。
- ② シュウトク物を交番へ届ける。
- ③ 汽車のケイテキが鳴る。
- ④ バクガから作られたビール。
- ⑤ セーターをアむ。
- ⑥ この植物には解毒作用がある。
- ⑦ 自分から率先して家の手伝いをする。
- ⑧ お話はこちらで承ります。
- ⑨ この地域では養蚕が盛んである。
- ⑩ 今年の夏至のころは雨の日が多かった。

二

次の①～⑤の四字熟語の傍線部の漢字として正しいものをそれぞれア～オから選び、記号で答えなさい。また、それぞれの四字熟語の意味を、後の1～10から選び、記号で答えなさい。

- |         |     |     |     |     |     |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| ① 起死カイ生 | ア 会 | イ 回 | ウ 快 | エ 改 | オ 開 |
| ② シ離滅裂  | ア 死 | イ 四 | ウ 私 | エ 支 | オ 士 |
| ③ 絶タイ絶命 | ア 体 | イ 対 | ウ 帯 | エ 大 | オ 貸 |
| ④ 言語ドウ断 | ア 動 | イ 同 | ウ 道 | エ 導 | オ 刀 |
| ⑤ 新陳代シヤ | ア 社 | イ 射 | ウ 車 | エ 謝 | オ 者 |
- 1 物事がこみいっていること。  
 2 もつてのほかであること。  
 3 辛く苦しい事にあつて苦勞すること。  
 4 どうしてものがれられない困難な場。  
 5 絶望的な状態を、再びよい状態に立ち直らせること。  
 6 古い物事を研究し、新しい知識を見つけ出すこと。  
 7 新しいものと古いものが入れかわること。  
 8 ばらばらで、まとまりがないこと。  
 9 言説に根拠がないでため。  
 10 苦しみながら困難に勝とうと努力すること。

三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

いまこそ、経済成長や数字に表される成長といった、私たちや私たちの社会を外から量的に見る見方だけではなく、「生きる意味の成長」といった人生の質に関わる成長を考えるべきときではないか。そうした「内的成長」をもたらす社会への転換が求められているのである。それは私たちが自分自身の「喜び」と「苦悩」に向かい合うことから始まる。そして、それは私たちの間のコミュニケーションのあり方の転換でもある。「内的成長」を育む様々なグループが生まれ、さらに仕事、学校、家庭といった場が私たちの「内的成長」の場へと転換していく。私たちのたどってきた道筋はおおよそ以上のようなものであった。

誰かから、あるいは社会から「生きる意味」を押しつけられるのではなく、私たちひとりひとりが「生きる意味」の創造者となる社会への転換がいまこそ必要だ。しかし、そうした転換に「大きな危惧を持つ人もいることだろう。ひとりひとりが自分自身の「生きる意味」のもとに行動していたら、この社会はバラバラになってしまうのではないか。そもそもひとりひとりがやりたいように生きていければ、それは A な個人の集まりとなってしまう、社会の統合が取れなくなってしまう。

押しつけられた「生きる意味」ではなく、自分自身の人生を取り戻すこと、それは抑圧された自分自身から「我がまま」に生きることへの転換である。しかし、それは自己中心の周りを意に介さない「ワガママ」となる可能性を秘めている。この「我がままーワガママ」問題はこれからの時代の大きな問題になるだろう。

「我がまま」と「ワガママ」の違いとは何だろうか。また、「我がまま」への目覚めがどのようなときに単なる「ワガママ」になってしまうのだろうか。

まず何が「ワガママ」と感じられるかは、社会によってかなり違うということを認識しておきたい。例えばアメリカに行くと、多くのアメリカ人のあまりの自己主張の激しさに閉口する人が多い。「私がこうしたい」ということを言い張るのが当たり前で、言わなければ何も考えていないと見なされ、日本のように「口に出して言わなくても、何を考えているかを感じてくれる」社会が懐かしくなる。このように私たちから見ればかなりの「Ⅰ」を言っても、「Ⅱ」とは見なされない社会もある。しかしそうした社会でも、明らかに「Ⅲ」ならば、強い調子で否定され拒否されるわけで、やはりそこには「Ⅳ」と「ワガママ」の差は存在しているわけだ。

そうした文化の差、社会の差を考慮に入れつつ考えたいが、この「ワガママ」を嫌う日本社会でもこのところ「ワガママ」としか思えない振る舞いが増えてきているのも事実だ。電車の中での大声での携帯電話の使用はこのごろ若者よりも大人のほうを多く目にするようになった。商品へのクレームもあるところまでは消費者の当然の権利だし、製造者の改善のためにもなるが、偏執的なクレームとなると話は別だ。子どものことで一方的に教師を責め立てる親。幼稚園や小学校の運動会は、自分の子ども「だけ」をビデオに収めたい親の場所取り合戦になり、お互いに「お前が邪魔なんだよ」と怒号が飛ぶ。そしてインターネットの掲示板などで炸裂す

る B で攻撃的な発言など。どうしてもこんなに自己中心的に振る舞えるのかといぶかっ  
てしまうような場面に遭遇そうごうすることが少なくない。

そうした状況でいつも感じるのは、「人の目」を気にしてきた日本人がいったん「人の目」を気にしなくなつたとき、そこには自分自身の行動を律する何ものも存在していないのだからかということだ。

X、町中の道の上で座り込んでゐる若者たちに聞くと、「通行人は単なる風景で、人だとは思っていないから」という答えが返ってくる。「人の目」は気にするが、いったん「人」でないと思つてしまえば何でもできる。そうした〈ワガママ〉な行動は、「人の目」に縛られてきた社会の反動ではないかと思えるのだ。

数年前、私の教えている東工大で留学生向けの講義を受け持ったとき、「日本の大学のどこに一番違和感を感じたか？」と聞いたことがある。その答えにびっくりした。ひとりが「学生が授業中寝ていることです」と答えたところ、皆が「そうだ、そうだ」と大きくうなずいたのである。「どうして大学生が教室で寝ているんですか？<sup>5</sup> それでも大学生ですか！」と言うのだ。

それを日本人大学生にぶつけてみると誰もが「だって、誰にも迷惑かけていないんだから、寝ようが勝手じゃないですか」と言う。「寝ていて、授業についていけなくて後で困るのは自分なんですから、別に他人に何か言われる筋合いじゃないでしょう」。しかし、海外からの留学生にとってショックなのは、「大学生にもなって教室で寝ているあなたには、大学生としてのプライドがないのか?」ということなのだ。寝ていたら先生から怒られ、成績が下がるならば寝ない。友達から非難され、最低人間だと思われるのなら寝ない。しかしそうした「人の目」がなくなれば、寝てしまう。しかし、「人の目」がなくなっても、「自分の目」から見て教室で寝ることは大学生として恥ずかしいことだと思わないかと留学生たちは問うているのだ。

ルース・ベネディクトは、「人の目」から非難される「恥」を強く意識する日本文化を「恥の文化」と呼んだ。しかし、彼女はもうひとつの「恥」を見落としていた。それは「私としたことがこんなことをしてしまふとは！」という、「自らを恥じる」という恥である。誰からも見られていなくても、恥じる。あるいは、「こんなことをしてしまつて、ご先祖さまに申し訳ない」「亡き恩師の期待を裏切つてしまつた」と、既に生きていない人に対して恥じる。日本人の倫理観は、単に自分の周囲の「人の目」だけではなく、先人たちや恩師たち、そして自身に対して恥ずかしいという感覚にも支えられていたのである。

しかし、そうした恥の感覚が薄れ、ベネディクトの言うように「人の目」のみを気にするようになり「恥の文化」が縮小してしまい、それ故「人の目」が気にならなくなれば何でもやってしまふというのが現在の日本人の姿なのではないか。そして、そこには決定的に欠けているものがある。それは自分自身に対する「自尊感情」だ。

自分自身に対する自尊心がある人間ならば、「人の目」がないところでも、何でもやり放題ということにはならない。自尊心とは自己信頼と言い換えてもいい。自分自身が尊い存在であるということを認めている人。尊重されるに足る存在だと感じている人。①自己を信頼し自尊心のある人は、「私としたことが、恥ずかしい」ということはあまりしないし、してし

まったにしても反省する。②しかし、自尊心が低く「自分なんかどうせたいしたことないんだよ」と思っている人は、人の目がなくなってしまうほどなことでもできてしまう。③

《我がまま》が《ワガママ》に転ずるかどうかが、④それは、そこに自尊心、自己信頼があるかどうか大きな分かれ目になる。⑤自己信頼に支えられた《我がまま》の追求は自分を生かし、他者も生かすものとなることが多い。しかし、自己信頼のない《我がまま》は《ワガママ》となって他人に多大な迷惑をかけるものになりがちだ。

Y、現在の《ワガママ》が横行する社会は、私たちひとりひとりの自己信頼、自尊心が低い社会であることの裏返しだと言えるのである。

それは私たちの「敵討ち」であるとも言える。自己信頼や自尊感情は私たちが成長していく中で与えられるものだ。私自身が存在しているだけで喜ばしいことだと、親からの「無条件の愛」によって私は愛されるに足る存在だということを知る。あなたは尊重されるに足る存在だと、教師や友達たちから「私自身への信頼」をプレゼントされる。そうした経験によって私たちは自分自身が尊重され、信頼に足る人間だという感覚を身につけるのである。しかし、現在の日本社会は子どもたちの自尊感情を傷つけ、自己信頼を抑圧するような「生きる意味」のシステムを持っていた。「条件付きの愛」を与え、「いい子」を育てるような社会が続いてきたのだ。

多くの人たちは自尊感情や自己信頼の低さの陰で「恨み」を抱いている。あるがままの自分自身を認めてくれなかった親に、社会に恨みを抱く。「人の目」を押つけて自分自身を抑圧するように仕向けてきた「生きる意味」のシステムに恨みと憎しみを抱いている。そして自由になつたら何よりもその恨みを晴らしたいと思っている。だから、いったん「人の目」から解放されてしまうと、私たちの行動は「C」になる。「人の目」によって抑圧されていた様々な行動がいっぺんに噴出し、とてつもない「ワガママ」になってしまうのだ。

- (a) 恨みを晴らし続けても、自分自身の自尊心や自己信頼が回復されなければ、私たちは永遠に「敵討ち」を続けなければいけない。
- (b) 恨みを持っている私たちは、「人の目」から解放され、思う存分「敵討ち」をするこ  
とが自己実現であり、人生の創造性の発揮であると思いがちだ。
- (c) それは創造性のある人生とはほど遠いものだ。
- (d) しかしそれは違う。

小さいときから「いい子」「いい友達」「いい妻」「いい母」と結局「いい子」をずっとやり続け「人の目」と「条件付きの愛」に縛られ、自分自身の人生には全く創造性がなかったと気づいた女性について先に述べた。そのことに気づくことは、それからの人生の大きな創造性につながる重要なきっかけだ。Z、それから「親のバカヤロー!」「社会のバカヤロー!」と、「敵討ち」を始め、それを永遠に続けるようだと、それもまた「敵討ち」を一生続けるといふ、極めてワンパターンな創造性のない生き方になってしまう。「敵討ち」は最初のうちはひとつ

の創造的な行為だが、しかしそこに凝り固まってしまえば「内的成長」はそこで止まってしまふ。「敵討ち」を続けることは「敵」からの解放ではない。常に「敵」を意識し、そこから逃れられないという意味で、それは「敵」に支配され続ける行為なのだ。そこで自己信頼と自尊心が回復していかなければ、私は結局「敵討ち」という形で、常に「敵」に支配される人生を送ることになるのである。

(上田紀行「生きる意味」)

問一

傍線部1「誰かから、あるいは社会から「生きる意味」を押しつけられる」とありますが、どのようなことですか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の「生き方」ではなく、社会のために役立つことを強いられてきたということ。
- イ 周りを気にせず、自己中心的に「ワガママ」に生きることを否定されたということ。
- ウ 経済に関心を持ち、社会の統合を取るような生き方を求められてきたということ。
- エ 社会によって、自分の人生を取り戻すことを強要されてきたということ。
- オ 「人の目」を気にし、自分自身を抑圧するように仕向けられてきたということ。

問二

傍線部2「大きな危惧を持つ人もいますが、根底にどのような考えがあるため、危惧を抱くのでしょうか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 私たちひとりひとりが「生きる意味」を求めているとしても、社会を転換させることは無理であるという考え。
- イ 私たちひとりひとりが「生きる意味」のもとに行動することは、〈我がまま〉に生きることであるという考え。
- ウ 私たちひとりひとりが「生きる意味」の創始者となることは、自己中心的な〈ワガママ〉となってしまうという考え。
- エ 人々が「生きる意味」を求めることは、自分の人生を取り戻し、抑圧された自分を解放することだという考え。
- オ ひとりひとりが「生きる意味」の創始者になることは、いままでの社会のあり方を否定することになるという考え。

問三

空欄 A にあてはまる語句として、最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 利己的    イ 中心的    ウ 抽象的    エ 観念的    オ 依存的

問四

傍線部3「意に介さない」7「横行する」の本文中の意味として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 3 「意に介さない」
- ア まとめない    イ 気にとめない    ウ 敬わない
- エ 非難しない    オ 心配しない

7 「横行する」

- ア 好ましくないことが盛んに行なわれること
- イ よこしまな情報が流れるということ
- ウ 思うがままに操作するということ
- エ 迷惑を省みずに進むということ
- オ 良くないことに支配されるということ

問五

傍線部4「〈我がまま〉と〈ワガママ〉の違い」とありますが、違いは何ですか。最もふさわしいものを、次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自己主張が激しいものが〈ワガママ〉であるのに対し、周囲を認める感情が含まれているものが〈我がまま〉である。
- イ 社会から否定される行動が〈ワガママ〉であるのに対し、「恥の文化」の意識を含んだものが〈我がまま〉である。
- ウ 自己中心的なものが〈ワガママ〉であるのに対し、自尊感情・自己信頼に支えられているものが〈我がまま〉である。
- エ 日本社会において嫌われる行ないが〈ワガママ〉であるのに対し、アメリカ社会に嫌われるものが〈我がまま〉である。
- オ 人々に多大な迷惑をかけるものが〈ワガママ〉であるのに対し、思いやりの行動が表れているものが〈我がまま〉である。

問六

空欄 I IV には〈ワガママ〉か〈我がまま〉のどちらかが入ります。その組み合わせとして最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

- ア Iワガママ    IIワガママ    IIIワガママ    IV我がまま
- イ I我がまま    IIワガママ    III我がまま    IV我がまま
- ウ I我がまま    II我がまま    IIIワガママ    IV我がまま
- エ Iワガママ    II我がまま    IIIワガママ    IV我がまま
- オ Iワガママ    IIワガママ    III我がまま    IV我がまま

問七 空欄 B にあてはまる語句として、最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 自画自賛 イ 天真爛漫 ウ 傍若無人 エ 荒唐無稽 オ 自由自在

問八 空欄 X Y Z にあてはまる語句を次のア～オの中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を用いてはいけません。

ア しかし イ なぜなら ウ つまり エ 例えば オ また

問九 傍線部 5 「それでも大学生ですか！」とありますが、留学生の驚きとは何ですか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 日本の大学生が寝ることに罪悪感をもっていないこと。

イ 日本の大学生が寝ることに開き直っていること。

ウ 日本の大学生が大学生としての自尊心を失っていること。

エ 日本の大学生が「人の目」を気にしないこと。

オ 日本の大学生が自己責任を負えないこと。

問十 傍線部 6 「恥の文化」とありますが、筆者は「恥の文化」を本来どのようなものとしてとらえていますか。最もふさわしいものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 「人の目」を意識し、「恥」を感じるだけでなく、自分自身の人生に関わる「内的成長」にも関心がむけられていたものだととらえている。

イ 今では「人の目」を意識することが縮小してしまったが、本来は「人の目」から非難される「恥」をもっと強く意識するものであったととらえている。

ウ 今では「人の目」を意識することが「恥の文化」であるが、本来は先人たちや自分自身に対して「恥」を感じるといふものであったととらえている。

エ 「人の目」を気にするだけではなく、先人たちや自分自身に対して「恥ずかしい」という感覚に支えられていたものだととらえている。

オ 自分自身を尊重するに足る存在だと感じるだけでなく、周囲にも尊敬の念を抱き、周囲から非難されないように意識されたものだととらえている。

問十一 この文章は、次の一文が抜けています。入るべき箇所を本文中の①～⑤の中から一つ選び、数字で答えなさい。

自分という存在が、〈ワガママ〉な行動を律する歯止めにならないのだ。

問十二 空欄 C にあてはまる語を本文中より抜き出して答えなさい。

問十三 文中の(a)～(d)を並び替えたものとして正しいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

|   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ア | (b) | ↓ | (c) | ↓ | (d) | ↓ | (a) |
| イ | (a) | ↓ | (c) | ↓ | (b) | ↓ | (d) |
| ウ | (a) | ↓ | (d) | ↓ | (b) | ↓ | (c) |
| エ | (b) | ↓ | (d) | ↓ | (a) | ↓ | (c) |
| オ | (b) | ↓ | (a) | ↓ | (c) | ↓ | (d) |

問十四 本文の内容と合致するものには○を、合致しないものには×を答えなさい。ただし、すべて同じ記号を用いてはいけません。

ア 私たちは他人や社会から「生きる意味」を押しつけられた反動として、自分の人生を取り戻すことを強いられ、そのため、〈ワガママ〉な振る舞いが増えてきた。

イ 「人の目」を非常に気にしてきた日本人が、「人の目」を気にしなくなったということは、自尊心が欠如したということの意味している。

ウ 私たちは子どものころから、自分自身は尊重される存在ではないと自尊心を傷つけられてきたため、親や社会に恨みを抱くようになってしまった。

エ 「敵討ち」を続けることは「敵」から逃れられず「敵」に支配され続けることであり、創造性のない生き方になってしまう。

東京農業大学第一高等学校中等部  
平成二三年度入学試験（二月一日実施）国語 解答用紙

|    |
|----|
| 氏名 |
|    |

|      |
|------|
| 受験番号 |
|      |

|    |
|----|
| 得点 |
|    |

一

|   |    |   |    |   |       |
|---|----|---|----|---|-------|
| ⑧ |    | ⑤ |    | ① |       |
| り | 承り | む | アむ |   | シユツカ  |
|   |    |   |    |   |       |
| ⑨ |    | ⑥ |    | ② |       |
|   | 養蚕 |   | 解毒 |   | シユウトク |
|   |    |   |    |   |       |
| ⑩ |    | ⑦ |    |   | ケイテキ  |
|   | 夏至 |   | 率先 |   |       |
|   |    |   |    |   |       |
|   |    |   |    | ④ |       |
|   |    |   |    |   | バクガ   |

二

|    |   |
|----|---|
| 漢字 | ① |
|    | ② |
|    | ③ |
|    | ④ |
|    | ⑤ |

|    |   |
|----|---|
| 意味 | ① |
|    | ② |
|    | ③ |
|    | ④ |
|    | ⑤ |

三

|    |   |
|----|---|
| 問一 |   |
| 問二 |   |
| 問三 |   |
| 問四 | 3 |
|    | 7 |
| 問五 |   |

|    |   |
|----|---|
| 問六 |   |
| 問七 |   |
| 問八 | X |
|    | Y |
|    | Z |
| 問九 |   |

|     |  |
|-----|--|
| 問十  |  |
| 問十一 |  |
| 問十二 |  |
| 問十三 |  |

|     |   |
|-----|---|
| 問十四 | ア |
|     |   |
|     | イ |
|     |   |
|     | ウ |
|     |   |
|     | エ |
|     |   |

|  |
|--|
|  |
|--|

|  |
|--|
|  |
|--|

|  |
|--|
|  |
|--|